

島の
仕事
図鑑

4

広島県
大崎上島

地域福祉

元気な地域。見守る福祉。

感謝されることが自分の成長



200人を超える介護グループの本部で、職員の管理や会計など、企業を支える事務課長として働く。仕事で最も時間を割くのは書類の確認。働いている仲間と施設長を繋ぐ重要な役割である。福祉の仕事をはじめようと思ったきっかけは、大学生時代にボランティアとして参加した障害者の人たちとのキャンプ体験。仕事で大変なことは、施設が年中無休であること。やりがいは、自分が成長しながら皆に感謝をされることだという。東京に住み、当初はサッカー選手か警察官になりたかった。しかし4年前に大崎上島へ5人の家族と共に移住した。島には小・中・高校があるという安心感が移住の決め手になった。「島にスローライフを求めてきたが、いつの間にか多忙になった」と苦笑い。仕事と家族との時間の両方がとても充実している。

仲間と上司を

繋ぐ

大林晃一
事務職



島内：事業部4 地域福祉 1

働く現役生涯
地域の元気

一番楽しいのは今。「親切」がモットー



古田ナカ子 90歳

「休みたいと思ったことはない。」そう言うのは、島で長年タバコ屋をしている古田さん。昭和25年に親の店を引き継いだ。90歳を超えた今でも年中無休でお店に立つ。タバコが売れることはもちろん楽しいが、人と話している時が一番楽しい。若い頃は子どもを育てながら仕事をして、今は一人でお店を切り盛りしている。過去を振り返っても悔いはないと言う。1日1日を大切にしながら、誠実に生きている姿がまぶしく見える。

島内：事業部4 地域福祉 2

大切にしているのは一人一人の個性



多様性
川崎比沙央 U
職業指導員



就労移行支援事業に関わる川崎さんは職業指導員として障害者の方々と一緒にパンの製造・販売に携わっている。そこで大切にしていることは、「一人一人に個性がある」ということ。利用者の方は良いところや課題がそれぞれ違っている。だからこそ、普段からのコミュニケーションはとても重要で相談しやすい環境づくりやアドバイスがいつでもできるように準備している。そこには目の前にいる「人」を思いやり、理解することが、仕事をするうえで大切であるという強い気持ちが見えていた。また、川崎さんは仕事と同じぐらい島の伝統文化の継承に対しても想いが溢れている。島の伝統的なお祭り「権伝馬」や秋祭りには担い手として参加している。そして「これからも伝統文化を守り、受け継ぎながら大切にしていきたい」と語ってくれた。

島内：事業部4 地域福祉 2

人のあたたかさが最高の魅力

親戚の移住をきっかけに島の魅力に出会い移住した梅山さん。朝は島の鳴き声で目が覚め、夜は星空を見上げる。気がつけばテレビを見る時間が減って、季節を感じながら自然を満喫できる島の暮らしに大満足。大阪でも福祉の仕事をしてきたからこそ感じることは、島の利用者さん達は自分でできることが本当に多いということ。食事や入浴、排泄などの介助は当然行っているが、サービスを提供してもらうというより、なんでも自分でやろうとする姿勢には驚かされた。その元気に負けないよう毎日働いていると語る。仕事で心がけていることは「自分がしてもらって嬉しいことを自分ですること。人任せにするのではなく、お互い声をかけることを大切に助け合うことで、これからは笑顔溢れる職場にしたいと教えてくれた。



笑顔
溢れる職場
梅山 瑛美 I-Queen
介護福祉士



島のこと 事業部4 地域福祉 3



島のこと 事業部4 地域福祉 4

経験のなかった高齢者福祉の仕事

小室 祐紀 I-Queen
介護福祉士
満足
してもらったため

気がつけば人と関わる仕事を選んでいった。これまでに鉄道整備、ゲストハウス運営、障害者支援など様々な仕事に携わってきたが、どんな仕事でも共通していたのは「人が好き」ということだと気がついた小室さん。これまで経験の無かった福祉の仕事でも、毎日楽しみながら働いている。担当のデイサービスでは、利用者さんにとって食事や入浴、日常生活の介護、レクリエーション等、どんな時でも満足してもらえるように努めている。いつも心がけていることは「笑顔で帰ってもらおうこと」。あまり知られていないが利用者さんの送迎も重要な仕事。ケガをしないように車の乗り降りや、運転には細心の注意を払わないといけない。それでも利用者さんの笑顔が身近に溢れるやりのある仕事だと福祉の魅力を感じてくれた。



気がつけば人と関わる仕事を選んでいった。これまでに鉄道整備、ゲストハウス運営、障害者支援など様々な仕事に携わってきたが、どんな仕事でも共通していたのは「人が好き」ということだと気がついた小室さん。これまで経験の無かった福祉の仕事でも、毎日楽しみながら働いている。担当のデイサービスでは、利用者さんにとって食事や入浴、日常生活の介護、レクリエーション等、どんな時でも満足してもらえるように努めている。いつも心がけていることは「笑顔で帰ってもらおうこと」。あまり知られていないが利用者さんの送迎も重要な仕事。ケガをしないように車の乗り降りや、運転には細心の注意を払わないといけない。それでも利用者さんの笑顔が身近に溢れるやりのある仕事だと福祉の魅力を感じてくれた。

介護福祉士から理学療法士へステップアップ

島に来てもうすぐ一年。学生時代にこの仕事に就き、この場所にいるとは夢にも思わなかった。高校卒業後、介護福祉士として、都会の施設で働いていた。働くうちにいつかステップアップしたいという思いが芽生えてきた。リハビリに興味を持っていたこともあり、職場で関わりのあった理学療法士の道を目指し、24歳で学校に再入学した。仕事では、心身が弱った人に対して、運動療法を提案したり、物理療法を活用したりする。経験が浅かったときは、痛みをとれず失敗してしまうこともあったが、今では、患者さんに寄り添って痛みを和らげることができる。福祉業界は、専門的な資格があるため、技術を磨いたり、ステップアップしたりするのは自分次第。休日は、バイクでツーリング。橋のかかっ



ていない離島は、最高の舞台となる。

島田智大 I-Gen
理学療法士

技術を
磨く



島田: 事業部4 地域福祉 5



岡田美佐子 94歳

働く現役
生涯 地域の元気

元気の秘訣はバランスの良い食事と毎朝の牛乳

仕事があるだけでもありがたい。そう話すのは、94歳を超えた今でもガソリンスタンドを一人で切り盛りする岡田さん。危険物を扱う仕事上、気を遣う部分もある。「生きていく限り、有意義な人生を送らんとけん」という言葉は重い。中学校の入り口に近いため、中学生らとの挨拶を交わすことが多く、それが1日の楽しみでもある。「字間に読み、世のため人のために人生を全うして欲しい」若い人にエールを送る。



川上慎司 U-Gen
社会福祉士

寄り
添う

島の暮らしも仕事もつながりが財産

島に帰って来てよかった！福祉の仕事は自分に合っていると優しい口調で語る川上さん。福祉の団体職員として日々利用者の方の家を訪問し、より良い暮らしの実現のために介護サービスの提案や調整を行っている。仕事のこだわりは、「困りごとの解決のためには本人の意思を尊重し、利用者さんに寄り添った支援をすること」。本人が納得していないとそれだけサービスを使ってもうまくいかないという経験からだ。そして、島の福祉の特徴は福祉関係者や近所の人たちが密につながっていることだという。いろいろな場面でたくさんの人とのつながりを活かして地域でひとりぼっちを生み出さないことをいつも心がけている。最後に、高校生たちへの一言は「友達を大切にすること」。人とのつながりを大切にする川上さんらしい優しさが込められていた。



島田: 事業部4 地域福祉 6

なりゆきの未来とあるべき未来。
アイデアとアクションであるべき未来へ。

大崎上島町商工会が「大崎上島未来会議―地域福祉編―」を2月11日開催した。島の

仕事関係のインタビューを通じて知った地域福祉の課題に対して、生徒や学生が解決策とアクションプランを考え、高校生と高専生に加えて広島国際大学看護学部の学生がファシリテーターとして参加し、4つのチームをつくった。最初に、「なりゆきの未来」と「あるべき未来」を付箋で出し合い、それらのギャップを課題ととらえ、知恵を出し合って解決策を模索。町に取組んで欲しいことだけではなく、自分たちができることも併せて考えた。提案内容としては、医療情報が少ないことに不安を感じる方々のために、医療総合



未来会議4 地域福祉 7

案内冊子の作成、高齢者の身内の負担を軽減するため、高校のコミュニティスペースを活用して福祉イベントを定期的に開催するといった具体的なプランが次々と提案された。それに対して、福祉業界で働く人達から「本来であれば、自分たちが考えるべきことを高校生らに考えてもらって有難いと同時に身が引き締まる思いだ」「今まで気がつかないようなアイデアを頂いたので形にしたい」といったコメントをもらった。最後に、町長と両校の校長先生が講評。「学校間連携の可能性を感じた」「プランを提案するだけではなく実行に移して欲しい」「具体的な提案で素晴らしいと思った」といった声があった。同時に、地域福祉に生徒や学生が目を向けるきっかけとなった。



8 地域福祉 未来会議4

学校間連携が
魅せる
地域の可能性。



見方や視点を変えると楽しいことがたくさん

介護の仕事についてきっかけは、小さい時からお世話になった近所のおじいちゃん、おばあちゃんたちを助けたかったからだ。福祉の仕事に関わる中で一番大切なことは「尊敬の心」。そうでないといけないからケアはできないと言う。福祉の現場は十分な人員がいつも揃っているわけではない。それでも今いる人達や新しく来た人達と一緒にできることを増やしていきたいながら、お互いにフォローをし合い、働いていくことが利用者さんからの信頼につながる。

していると語る。島で子育てをしながら働いているが、職場の人達の理解もあり、時には子どもと職場に行くこともある。そんな時、利用者さんや同僚の人達などたくさんの人にかわいがってもらっていることは島ならではの良さだと笑顔で教えてくれた。



寄能真美 U^{グーン}
介護福祉士 尊敬の心



働く現役生涯 地域の元気

「働くこと」は「生きがい」。商いは「真心」



宮本 賢 90歳

機械をいじるのが好きで、飛行機の整備をしていた20代。終戦後に、人に勧められて印刷の仕事が始めた。誤字脱字をしないように気をつけるが、ミスをゼロにすることはとても

難しいという。長年働いていると多くの失敗がある。印刷で名前を間違えたり、納品物を燃やしたりと、それでも「働くこと」は「生きがい」。言う。「今の仕事以外のことをしたいとは思わない」。百歳体操に通いながら、これからも奥さんとともに歩んでいく。



オガワ成美 U^{グーン}
介護福祉士 変化に気付き心配り

利用者さんの昔話は島の歴史を知れる良い時間

福祉に向いている人を探ねると、相手の立場になって話を聞くことができる人と答えてくれた。いろいろな性格や病気の人もコミュニケーションがとれることも大切な力になる。祖母の介護の経験や、中学生時代の職場体験学習をきっかけに福祉の道に進むことを決めた。高校卒業と同時に、島の施設に就職。最初にふかった壁は「死」という現実だった。介護に限り一生ついてくるテーマであり今も慣れることはない。自分は利用者さんに何ができていたのだろうか？

常に自問自答しながら次に活かしてきたが、その大変さから福祉の仕事から離れたこともあった。しかし「人の心と関わり続けられる」この仕事が一番だと感じて戻ってきた。今は地元に戻って、両親や近所の人達に囲まれながら家族と暮らすことに楽しさを感じている。



常に自問自答しながら次に活かしてきたが、その大変さから福祉の仕事から離れたこともあった。しかし「人の心と関わり続けられる」この仕事が一番だと感じて戻ってきた。今は地元に戻って、両親や近所の人達に囲まれながら家族と暮らすことに楽しさを感じている。

仕事に暮らしに欲張りスタイル

小さい頃や学生時代に、将来の自分が福祉の仕事に就くとは全く思っていなかったという岡本さん。カナダで2年間働いたり、マスメディア系の会社で働いたりしていたが、29歳で看護学校に入学し、以来この仕事に従事している。広島市内で仕事をしてきたが、仕事が終わったら患者さんや仕事仲間と他人のような距離感になることに戸惑っていた。一方、この島では、古民家の多い地区に住んでいるが、住みだしてすぐに近所の人から話しかけられて、とてもよくしてもらっているという。広島県福山市出身で、この仕事に応募した理由は、もともと田舎が好きだったこともある。島での暮らしは、予想以上に大きいムカデの存在以外は、想定範囲内で楽しく暮らしている。休みの日は、海沿いをドライブして、海を見ながらまったり島時間を楽しめる。



距離感

岡本展幸
Iターン
看護師



地域で暮らす全ての人の保健室

池田美果
Uターン
保健師



基本 を大切に

行政という立場から、島の人たちの暮らしを支える保健師の池田さん。子どもから高齢者、障害者、生活困窮者と関わる人達が多いのが、この仕事の特徴。たくさんのお客さんと関わる仕事だからこそ多くの困難もあるが「あきらめない心」と「チャレンジ精神」で1人1人の「できた!」を増やすことを目標にしている。そして、「楽しいのは「住民さんと一緒に活動をしている時」と教えてくれた。そのなかでも、今力を入れているのは高齢者の介護予防事業。広島県内でも最先端の取り組みを行っている大崎上島町は、前期高齢者の95%は元気に自分らしくイキイキと暮らしているという。はじめは杖をつけて歩いてきた人も体操教室などに通った結果、杖が不要になった例もあると笑顔で語る姿は力強い。これからは地域の人が自分で行えるという喜びを尊重しながら、自立した暮らしの支援を行う。



地域と一緒に福祉の仕組みを考える

先天性の心臓病を患い生死をさまよった幼少期。それがきっかけで人の役に立つ仕事に興味を持ち、高校時代に祖父の病気を間近で見て福祉の仕事をしたいと強く感じた。大学は福祉を学ぶために熊本県の大学へ。就職で大崎上島に縁があつて移り住んだ。「地域は生き物」という波多野さん。そんな地域と一緒に仕事を考えていくのが社会福祉士の仕事。介護の現場仕事から、地域に根ざした福祉の仕組みづくりを目指して今の仕事に転職。鳥根県から大崎上島に来て12年。島に残る伝統の「權伝馬」に参加して、ますます地域とのつながりを大切にしている。目に見える関係をどれだけつくれるかで結局それが仕事につながるという。海水浴場の清掃のように、仕事ではなく個人のボランティアとして参加することが増えた。弱みを強みに変えることが今の仕事に必要な発想と笑顔で語る。



地域は
生き物

波多野 一
社会福祉士

鳥根県 大崎上島 13

あなたのそばに
In a Presence がモットー

沖原 静
訪問看護師



地域で
育つ

鳥根県 大崎上島 14

「訪問看護師は地域で育っていく」と明るく口調で沖原さんはその魅力を語る。利用者さんとの会話を大切にしながら暮らしに深く関わることでできる訪問看護師の道にやりがいを感じた。日々の仕事では利用者さんの自宅を訪問して健康チェック、リハビリ、入浴介助などを行う。さらに訪問看護だからこそ、何気ない会話や部屋の様子から利用者さんの体調の変化を読み取ることも重要になる。在宅での暮らしを支えるからこそ、最期の看取りと向き合うこともある。そのために大切にしていることは「心と身体」の苦痛をやわらげる。「笑う」「続ける」の3つ。利用者さんごと家族の想いを汲み取るのは簡単ではない。それでも、わたしたちが来るのを笑顔で待っていてくれる。沖原さんはそんな地域と一緒に飛び出す仲間を大歓迎している。





国立広島
商船高等
専門学校

生徒や学生が実施した。半年がかりの
中期的な合同プロジェクトは初めて
だったが、学校間連携による地域課題
解決の可能性が広がった。

島の
仕事
図鑑

4

広島県 大崎上島

地域福祉

元気な地域。見守る福祉。

大崎上島にある高校と高専が18名の
合同チームを結成して取り組んだ「島
の仕事図鑑4「地域福祉」」。インタ
ビュー及び掲載写真の撮影はすべて



広島県立
大崎海星
高等学校



＼島の仕事図鑑1～3もチェック！／ www.hint.or.jp/~kamijima-ohsaki



島の仕事図鑑



島の仕事図鑑2「造船・海運」



島の仕事図鑑3「農業」

大崎上島町商工会 〒725-0301 広島県豊田郡大崎上島町中野4098-4
TEL 0846-64-3505 FAX 0846-64-3552 E-MAIL kamijima-ohsaki@hint.or.jp

取材／大崎海星高校 生徒 広島商船高等専門学校 学生 有志18名 取材協力／大崎上島地域協力者

本冊子の掲載内容は平成29年2月28日現在のものです。

大崎上島のごことは「大崎上島観光ナビ」をチェック! osakikamijima-kanko.jp